

令和2年度 復職支援研修

講義・演習コース 実施報告

講義・演習コース2：令和2年9月10日（木）、11日（金）、18日（金）

1. 目的

- ① 就業を希望する者に対し、最近における看護知識・技術を修得させ、未就業看護職に再就職を促すとともに就業の継続支援を目的とする。
- ② 新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、新たな看護業務の発生や看護職員の休業等で緊急の要請があった場合、協力可能な看護職が不安なく業務に従事できる。

2. 開催日

講義・演習コース 9月コース：令和2年 9月10日（木）、11日（金）、18日（金）

3. 開催場所

宮崎県看護等研修センター

4. プログラム

(講師敬称略)

開催日	午前	午後
1日目 9/10	<p><u>開講式 9:20</u> <u>看護の動向 (9:30~10:30)</u> 看護に関係する社会環境の変化や最近の看護に関する動き等を学ぶ 宮崎県ナースセンター長</p> <p><u>復職支援講座 (10:40~11:20)</u> 職場の選び方・履歴書の書き方・職務経歴書の書き方・面接の受け方 ナースセンター担当職員</p> <p><u>自己紹介・意見交換 (11:20~12:00)</u> 受講生間の交流を深め、再就業への意欲をさらに高める。</p>	<p><u>感染管理 (13:00~15:00)</u> 感染の知識を深め、正しい感染予防の実際を学ぶ。感染予防の基本的技術を習得する。</p> <p>国立病院機構宮崎東病院 感染管理認定看護師 大浦 恵</p> <p>ナースセンター登録の支援 (希望者のみ)</p>
2日目 9/11	<p><u>フィジカルアセスメント (9:30~12:00)</u> 患者の状態から緊急性の有無を明確に判断・把握し、必要とされる看護ケアへつなげることー看護観察から判断まで (実技含)</p> <p>県立日南病院 集中ケア認定看護師 堀口彰一</p>	<p><u>医療事故防止の現状と課題 (13:00~15:00)</u> 身近に起こりうる医療事故について知り、予防策について学ぶ</p> <p>宮崎医療センター病院 医療安全管理室副室長 黒田伸一</p>
3日目 9/18	<p><u>「新型コロナウイルス感染症」宮崎県の現状 (9:30~10:00)</u> 県医療薬務課看護担当 主査 岩田恵美子</p> <p><u>感染管理 2 (10:00~12:00)</u> 1日目の講義を踏まえ、現場で活用できるガウンテクニック等の技術を習得する 国立病院機構宮崎東病院 感染管理認定看護師 大浦 恵</p>	

5. 受講者の状況

- ① 受講者：8名（未就業者 8名）
- ② 取得看護免許：保健師1名、看護師6名、准看護師1名
- ③ 年齢：36~57歳（平均 48歳）

年代	受講生数	構成比
~29歳	0	0%
30~39歳	2	25%
40~49歳	2	25%
50~59歳	4	50%
60歳以上	0	0%

④ 看護職経験年数：3年～18年（平均13年）

経験年数	受講生数	構成比
1年未満	0	0%
1～5年未満	1	12%
5～10年未満	2	25%
10～20年未満	5	63%
20年以上	0	0%

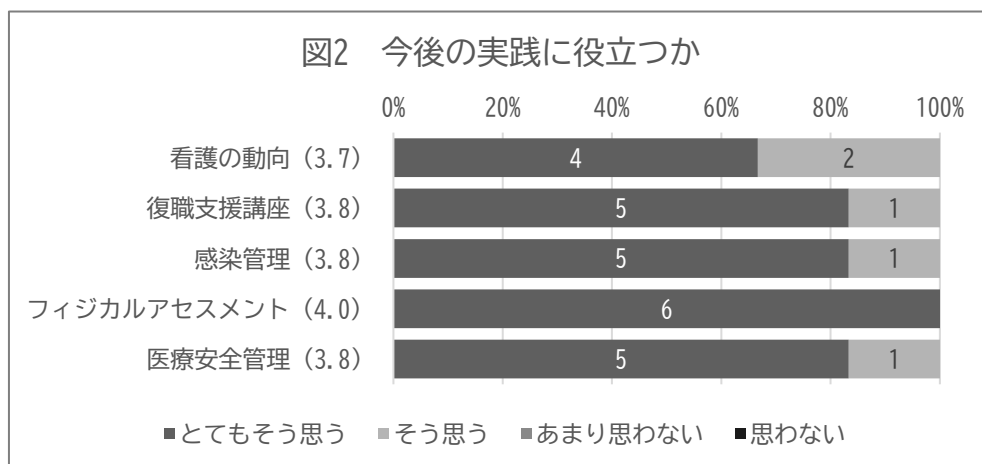
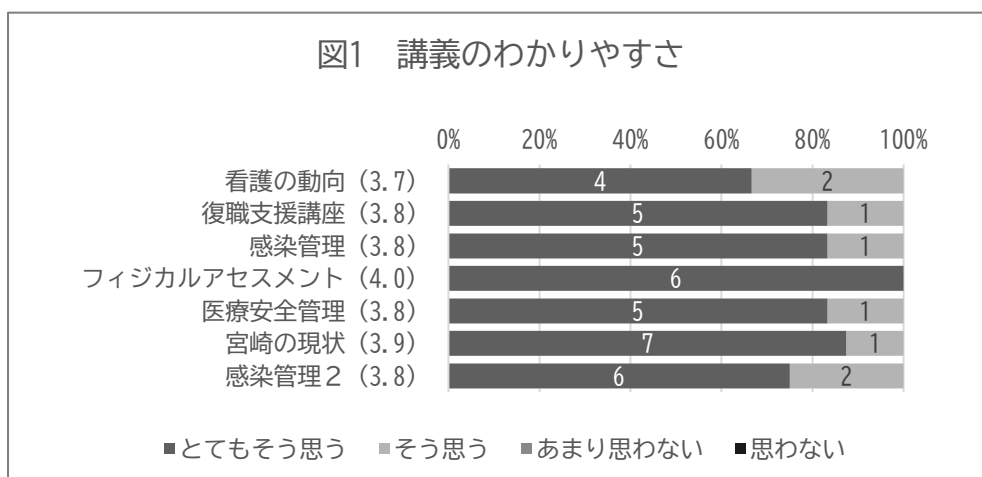
⑤ 未就業者8名の最終離職(または免許取得)から受講までの期間(ブランク期間)
0.5年～25年（平均10年）

ブランク期間	受講生数	構成比
1年未満	1	12%
1～5年未満	3	37%
5～10年未満	1	13%
10～20年未満	1	13%
20年以上	2	25%

6. 結果

各講義について、＜理解度（わかりやすさ）＞＜今後の実践に役立つか＞について4段階評価尺度と自由記述方式によるアンケート結果で示した。

【1】各講義のアンケート結果



【2】自己紹介・意見交換

1) 内容

(1) 目標

受講生間の交流を深め、再就業への意欲をさらに高める

(2) 内容

- ・ アイスブレイクと受講生自己紹介
- ・ 意見交換

【3】受講しての感想

・体調不良やけがを乗り越えてやっと講習に参加できました。この一步を踏み出せたことが、新たなスタートです。協会の方にはいつもナースセンターの登録の更新や相談でよくしてもらって、希望と自信につながりました。

・より実践・現場に近い講義になると、やはり緊張します。情報を新たにする機会になりました。

・自分の観察力がまだ甘いのかもしれない。講義内容のように観察力を上げていきたい。安全性を考えた時に、もっと知っておくべき事があると感じました。

・QRコードでのテストが楽しかった。間違い回答しても、わからないので良かった。

・(PPE 着脱は) 見るだけではなくて、実際に行うことができ良かった。

【取り入れてほしい講義】

・人間関係……。人のいい宮崎の病院、施設でも、人間関係の問題はあるので、パワハラなどから心身を守り、ストレスをコントロールし末永くナースとして輝ける方法などを知りたいです。

・可能ならば、宮崎でどのような治療薬がもちいられているか、ECMOがどのくらいある…など、教えていただきたかったです。

・介護の現場で働いているので、様々な場面で介護者と利用者にとって負担の少ないトランスファーを習得したい。現場での双方の事故や、腰痛などでの離職者も多く困っています。

7 まとめ

今年度の復職支援研修「講義・演習コース」は、新型コロナウイルス感染拡大により研修会場の借用が困難となったため、9月から一部内容を変更して開催した。研修3日目をスキルギャップ研修と位置づけ、従来の研修目的に加えて、コロナ関連の新たな看護業務に協力可能な潜在看護職が、不安なく業務に従事できることを目的に追加し研修を企画した。

参加状況は、3日間で6名、3日目のみが2名で、計8名の看護職が参加した。講義については、アンケート調査結果からも満足度の高い内容となっている。受講生は、いずれも未就業で、今回の研修をきっかけに就職を決めた看護職もおり、本研修が就職への意欲を高め、その後押しになっていることが伺えた。コロナ関連の求人として、軽症者等宿泊療養施設の求人登録があったが、今回はマッチングに至らなかった。ブランクのある看護職が、即戦力として期待される環境(求人)は、ハードルが高いようだった。しかし、それぞれが前向きに就職活動中で、ナースセンターでは、継続して就業支援を行っているところである。

潜在看護職に対しては、再就業することがゴール(目的)ではなく、働き続けることができる(定着)ことを重視し関わっている。本研修は、早期離職の要因の一つでもあるスキルギャップを緩和するためにも重要な役割を果たしていると考えられる。